

様式 4

会 議 録

会議名 (審議会等名)		令和 6 年度第 1 回愛川町福祉のまちづくり推進委員会		
事務局 (担当課)		民生部福祉支援課 内線 (3 3 5 2)		
開催日時		令和 6 年 8 月 2 8 日 (水) 9 時 3 0 分～1 1 時 4 0 分		
開催場所		福祉センター 3 階 会議室		
出席者	委 員	1 1 人 (別紙のとおり)		
	その他	0 人		
	事務局	6 人 (福祉支援課長、ほか 5 人)		
公開の可否		☒ 公開 ☐ 一部公開 ☐ 非公開	傍聴者数	0 人
非公開・一部公開の場合は、その理由				
会議次第		1 開会 2 あいさつ 3 議題 (1) 第 6 期障がい福祉計画・第 2 期障がい児福祉計画の実績について (2) 第 1 期自殺対策計画の実績について (3) 第 3 時障がい者計画の推進状況について (4) 第 4 時地域福祉計画、地域福祉活動計画の推進状況について 4 閉会		

審 議 経 過

(1 / 9)

※審議の要旨は次のとおり（○は委員の発言、●は事務局の発言）

1. 開会

2. 委員長あいさつ

3. 議題

（1）第6期障がい福祉計画・第2期障がい児福祉計画について

【資料1で事務局説明】

○（委員長）：事務局からの説明は、以上のとおりであります。何かご質問やご意見はございますか。

○（A委員）：実績の数値の説明がありましたが、その分析というのはこの場では行わないのでしょうか。

●（事務局）：分析という形では行っていないんですが、1ページ目の減少の要因ですが、この項目は、新たな方がいれば増加しまして、現時点では減っているということなので、データから読み取りますと、地域移行という人数となっていないため、減少の主な要因といたしましては、対象者の方がお亡くなりになられたことが主な要因となっていると思われます。

○（A委員）：承知しました。もう1つ、歳出額が9,000万円ほど増えているとのことですが、それは、サービスの回数が増えたのか、利用者が増えたのか教えてください。

●（事務局）：利用回数が増えています。新たなサービスや事業所も増加しており、今まで利用していなかった方が、このサービスなら利用しようといったことなどから、

※主な発言の要旨等、審議経過がわかるように記載すること。

会長(委員長)
署名欄

石井 康弘

審 議 経 過

(2 / 9)

新たに利用される方も増え、全体的に増加となったものであると考えられます。

○(A委員)：障がい者の方々には良い方向になっているということでしょうか。

●(事務局)：サービスの選択肢が増え、利用に繋がっていることから、年々生活を送るのには良い方向に向かっていると思われます。

○(B委員)：1ページの就労移行について、一般就労への移行ということで10人の目標に対し9人ということで、目標には届いていませんが、9人というのは、色々ご苦労があったと思われますが、具体的にどの様な支援を行って、実績となったのかお聞きします。もう1つ、就職後の定着ということがあると思うので、現状どの様になっているのか教えてください。

●(事務局)：本人が所属されている作業所や移行支援事業で、本人の一般就労に向けた希望と、本人の動機付け、あと就労に向かえる作業能力があるかどうかというところを関係機関と連携しながら、良い頃合いのところで、移行に向けて支援していくことを心掛けて支援しています。定着というところに関しては、どちらかというと、受け手の企業での困り感とか、支援の仕方というところが、不安があったりするため、定期的にモニタリングだとか、就労定着のサービスがあるので、その事業所との連携を図りながら、本人の就労の定着に向けた支援を継続的に行っています。

○(B委員)：今日、私は海老名からバスで来ましたが、愛川町は、町としても、企業が多いという部分があると思いますが、例えば、内陸工業団地の企業の協力とか、かなり大きいものがあって、成果に繋がっている部分はありますか。

●(事務局)：内陸工業団地があるということで、特に支援学校で、そこに通われてい

審 議 経 過

(3 / 9)

るお子さんに関しては、比較的、内陸工業団地などで、概ね高校2年生年齢で、実習をしてみて、そこでの成果がどうだったのか、そこから、福祉的な就労に向けて進んだ方が良いのか、見立てを行う上では、内陸工業団地は愛川町の強みであるのかと思います。受け手の、内陸工業団地の企業さんの方でも、障がいのある方への支援というところは、恐らく経験があると思われるので、そこは、良い関係性の中で、ご協力いただいているのではないかと考えています。

(2) 第1期自殺対策計画の実績について

【資料2で事務局説明】

○(委員長)：事務局からの説明は、以上のとおりであります。何かご質問やご意見はございますか。

○(C委員)：結果の記載はあるが、どれだけの効果があったということが見えないことと、愛川町では実際に自殺者がどれだけいて、どのくらい増えたのか、減ったのか、評価では、概ね達成できたというのがあるが、目に見えてこない、これをやったから、どのくらいできたのか、何人の相談者がいて、何人の方が助かったのかということが、やったことに対して、概ね達成できたというのは分からないので、もう少し細かくできないかと思います。

●(事務局)：まず、自殺者数については5名以内の場合には、公に記載等を行わないこととなっており、ここには記載をしておりません。また、それぞれの事業により何人が助かったかなどの効果は目に見えた結果はわかりません。また、警察統計上での自殺の理由も、全ての方の自殺理由が分かるものではないこともあり、実施している

審 議 経 過

(4 / 9)

事業がどのような効果が出て、自殺者数が何名減ったという結果にはならないものであり、このような取り組みにより、未然防止という観点で、例えば、生活が苦しく自殺となるケースもありますが、生活困窮に伴う相談を受け、適切な支援に繋げることで、自殺の方向に向かないようにすることが重要であり、未然防止に繋がっているもので、目に見える数値等では、表すことが出来ない計画となります。

●(事務局)：お話の中で実績が分かりにくいということがあったんですが、(1)でお話をしました、障がい者福祉計画・障がい児福祉計画、これは実施計画ということになっていまして、計画値になっており、数値で表すことが容易になっておりますが、自殺対策計画の方は、事業とか、啓発を行うことなどの事業により立てた計画になるので、中々、数値で表すことが難しい事業も中にはあります。数値で表すことが可能な事業については、状況の中に数値を入れておりますが、分かりにくい部分もあり、申し訳ありません。評価の中で、概ね達成できたという部分ではあります。こちらについては、全国ではまだ、2万人強の方が自殺でお亡くなりになられておりまして、愛川町でも、計画の中では、自殺者0ゼロの町を目標に事業を進めております。こうしたことから、達成できたから、終わりにするということではなく、参加者人数を増やすだとか、更に啓発に努めるだとか、自殺に対して、町民の方々に意識を持ってもらえるように、計画を進めてまいりたいと考えておりますので、事業を継続して行ってきたものについては、概ね達成できたという表現としております。第2期の自殺対策計画では、女性に対する自殺者や子どもの自殺者が増えたりといった傾向がありましたので、第2期の計画では、そういった事業を取り入れて、計画を策定したところで

審 議 経 過

(5 / 9)

す。

○（Ｃ委員）：啓発を行って、概ね達成できたということは、事業が達成できたのか、それともそれによって自殺が減ったのか、どちらなのか。本当にこういうことを行って自殺者がへったのか、そういうことが目に見えてないので、そこが分かるようにならないか。達成したということが、自殺者が減ったことに達成感があるのか、事業を実施したことに達成感があるのか、分かりにくいと思います。

●（事務局）：この事業の中で達成できたかを評価しています。何を行ったから自殺が減ったとか、そういった評価ではなくて、例えば、ハイリスクのネットワーク会議が出来たことによって、その事業が達成できたものであって、これが直接自殺が減った等の要因、増えた要因に繋がったものではないものとなっているので、評価にはなっていないので、今後、少し工夫して分かりやすい表現にして行きたいと思います。

○（Ｃ委員）：やれば達成できたと言うのは分からない。やればいいんだということだけになってしまうと、普通はやりましたことくらいしか書けないと思う。達成したと記載があると、自殺者が減りましたと見えてしまう。達成できたという言葉が、やれば達成できたということなのかなと思ってしまう。

●（事務局）：そういう意味では達成ではないかもしれませんが、こういった取り組みを行うことで、未然に防ぐという、そこが自殺にまで至らないようにその前の段階で芽を摘むということがとても重要で、例えば、先ほどもお話しましたが、生活困窮者の支援では、必要な支援に繋げる、こういったことも、自殺の原因の生活困窮があるので、こういった部分を支援することで、自殺を考えることがないように行っていま

審 議 経 過

(6 / 9)

す。総合評価の記載方法が分かりにくいとのことですので、次年度は修正させていただきます。

○（C委員）：相談が何件あったと記載がありますが、そのあとどうなって、その後も追いかけているのでしょうか。

●（事務局）：当然、相談のあった方については、必要に応じフォロー行っています。必要な方については、自宅への訪問も行っています。

○（D委員）重点施策2の（3）高齢者に関する相談支援の総合評価でここだけ、Aの達成できたとありますが、限られたスペースの中で、記載しているので難しいと思いますが、あえて、A評価となっていますが、これでこうだというのが分かればお教えいただきたい。

●（事務局）：こちらの計画は、全体に関わることで、福祉支援課で取りまとめを行っていますが、自殺を抑制していくという事業の中で、福祉支援課以外の課もあるため、記載のある部分以外の具体的なことまでは、資料をいただいていないので、お話することが難しい状況です。

○（D委員）：高齢介護課、包括支援センターの職員を知っていますので、後程お聞きしたいと思います。

○（E委員）総合評価で、この部分は達成できた、この部分は達成できなかったなど、細かく記載があると分かりやすいと思いました。

●（事務局）：概ね達成できた理由としましては、この事業を実施していく中で、ゲートキーパーの講座など、参加者人数を増やしていくなどありますので、課題も残って

審 議 経 過

(7 / 9)

いますので、概ね達成できたとしております。今後も効果があると思われる事業など引き続き推進してまいりたいと考えております。

(3) 第3次障がい者計画の推進状況について

【資料3で事務局説明】

○(委員長)：事務局からの説明は、以上のとおりであります。何かご質問やご意見はございますか。

○(A委員)：・第3次障がい者計画No.88スポーツ・レクリエーションフェスティバルを秋の一大イベントとして定着させていきたいとのことだが、毎年開催してほしいとお願いしているが、このような考えであれば、毎年開催するようにしてほしい。

No.113 令和5年度の実施状況では、各指定避難所運営委員会において、要配慮者専用の受入れスペース等を確認し、要配慮者に対応した円滑な運営に努めたとあるが、事実ではないと思う。(中津小、高峰小)

(4) 第4次地域福祉計画・地域福祉活動計画の推進状況について

【資料4及び資料4-2で事務局説明】

○(D委員)：資料4の31ページ 町で実施している「かわせみ広場」を利用することの保護者から、夏休みもかわせみ広場を利用できれば安心して働ける、との声を聞いた。「誰もが安心して子育てできるまちづくり」を推進するため、地域からこのような声があることをお伝え頂きたい。

●(事務局)：担当部署に伝えさせていただきます。

○(A委員)：資料4の19ページ 災害時要援護者について、自治会等の地域防災組

審 議 経 過

(8 / 9)

織は民生委員と連携し支援をすることになっている。自治会員ではない対象者は、いただいている台帳名簿でしか把握できず、自治会からのアプローチが難しい中で、民生委員を通じて災害時に支援をすることを対象者に伝えたところ、断られたケースが多かった。

名簿登録を申請しているにもかかわらず、このようなことが起きている背景には、地域の支え合いすら拒否する方が多い現状において、名簿に登録されていれば町が助けてくれると考えているように感じられる。自治会でサポート体制を作ることは難しく、少数の民生委員で大勢の要援護者を対応することもできない状況にある。

○(委員長)：高齢者の災害対応について、当委員会から危機管理室等関係部署にお伝えする。

○(B委員)：ここまで3つの対象別の計画をみてきて、最後に地域の計画ともなると、かなり取り組みの項目で重複しているのではないか。まず、役場での分野別の計画と地域福祉計画の重複している事項について庁内で具体的にどのように連携されているのか教えてほしい。

●(事務局)：地域福祉計画策定の際には、各担当課が計画策定委員となっているので、会議をもって連携を図っております。また、日ごろから課の垣根を越えた連携を図り、行動を共にしている状況にありますが、特別な取り組みは行っておりません。

○(B委員)：包括的な支援体制をすすめる為の一つの手段として重層的サービス支援事業という補助事業がある。組織対組織で互いに共通の目標に向かって役割を分担していくことはなかなか難しい。このような問題を解消していく為に、管理職級の方々

審 議 経 過

(9 / 9)

の会議を定例的に設けて日常的に確認し、必要があれば組織対組織の調整をしていく仕組みを設けているところもある。

そのような仕組みも含めながら、社協、役場等連携をとりながら取り組んでいきたい。

○(A委員)：資料4の13ページ 福祉教育活動推進事業の「福祉教育連絡協議会」について、最近学校のニーズが変わってきたようで、車椅子や点訳、高齢者疑似体験よりも、車イスバスケットやボッチャ・ボールゴールなどのパラスポーツの方に興味がある。地域福祉へ子どもたちが興味を持ったり、きっかけの窓口になれるよう、横断的に雰囲気を作って、予算付けや備品を揃えて頂きたい。

○(委員長)：ご意見として承ります。他に質疑、意見等はないか。なければ、本件について委員皆様のご了承をお願いしたい。

※委員皆様の了承を得る。

・ 本日の意見、また議事録の内容については、委員長の承認が委員全員の承認ということでした承を得られた。

4. 閉会

【高橋副委員長からのコメント】省略